

地域コミュニティのあり方研究会 報告書



平成30年3月

地域コミュニティのあり方研究会

目 次

はじめに

- 1 地域コミュニティのあり方研究会について
- 2 各地域や団体の取り組みの現状と課題
- 3 地域のくらし・団体の課題と解決策について
- 4 行政との関わりについて
- 5 西条市での本格検討にあたっての提案

(添付資料)

1. コミ研通信

はじめに

現在、市を取り巻く環境は、少子高齢化への対応、快適な生活環境の整備、安全・安心な暮らしの確保など、さまざまな課題を抱え、その全てを行政が解決することは困難な状況となってきています。

また、人々の価値観やライフスタイルの変化は、地域で「助け合う」といった住民の互助に対する意識の希薄化を招き、急激に進行する少子高齢化と相まって、多様化、複雑化する地域課題への対応に支障をきたしつつあります。

このような状況の中、快適で安全・安心な暮らしを確保するためには、行政だけでなく、地域をよく知る住民が中心となって、地域のことを地域で考え、地域の特性に応じて主体的に取り組み、自ら解決する「地域自治」の実現、そして、市民と行政の協働によるまちづくりの推進が求められています。

平成16年に2市2町が合併した西条市では、地域によって人口や規模、自治会の成り立ち、各種団体との関係、そして行政との関わり方など、様々な事情が大きく異なることから、全市一斉に、かつ画一的な手法では、これからの地域づくりを行っていくことが難しいと考えます。このため、地域の住民がそれぞれの地域づくりについての違いや課題を共有し、これからの地域づくりのあるべき姿を自由に、かつ継続的に話し合える場として、研究会が設置されました。

研究会では、西条市が来年度以降に予定している広域コミュニティの本格検討を行うにあたり、その準備段階から市民参加で検討するというこれまでの行政にはあまり見られなかった手法で、西条市の地域コミュニティの現状と課題の共有、広域コミュニティ形成に向けた検討課題の整理、来年度以降に設置する委員会に関する提案など、平成29年10月から平成30年2月にかけて計5回延べ10時間以上にわたる研究活動を行いました。

この研究会での研究成果が、今後の西条市における広域コミュニティ形成に向けた検討に大きく寄与することを期待し、以下のとおり研究してきた内容を報告します。

平成30年3月
地域コミュニティのあり方研究会

1 地域コミュニティのあり方研究会について

(1) 研究会の設置背景

平成16年に2市2町が合併した本市では、地域によって人口や規模、自治会の成り立ちや各種団体との関係、行政との関わり方など、さまざまな事情が大きく異なり、画一的な手法では、これからの地域づくりを行っていくことが難しいと考える。このため、地域の住民がそれぞれの地域づくりについての違いや課題を共有し、これからの地域づくりのあるべき姿を自由に、かつ継続的に話し合える場として、研究会を設置した。

なお、本研究会の設置については、市民協働に関する政策アドバイザーである櫻井常矢氏より、平成29年8月26日に開催した「地域づくり講演会」で提案いただき、研究員の皆さんの参加・協力によって実現した。

(2) 研究員 32名

川上 善秋、斎藤 宣昭、岡本 将広、森賀 拓也、黒河 幸子、伊藤 日登美 川上 和彦、矢野 文和、一色 千草、石川 謙治、木藤 容子、塩出 将太郎 真鍋 桂子、山内 章正、木本 好信、白石 小夜、横井 絹子、難波江 孝男 井上 康、青野 史典、黒川 知恵、野島 貴子、渡部 克彦、永井 英吾 佐伯 耕一、田口 勝三、處 淳子、奥平 紀男、岡崎 佑香、今井 菜穂美 越智 早苗、矢野 志織（順不同、敬称略）

(3) 研究会アドバイザー

西条市市民協働に関する政策アドバイザー 櫻井常矢
（高崎経済大学地域政策学部 教授）

(4) 研究会事務局

西条市企画情報部市民協働推進課

(5) 研究会の目的

西条市における広域コミュニティの形成に向けた本格検討を進めるにあたり、その検討の準備段階から市民参加で行うことを目的に研究活動を行う。具体的な、研究内容等については以下のとおりである。

- ・西条市の地域コミュニティの現状と課題の共有
- ・広域コミュニティ形成に向けた課題の共有
- ・来年度以降設置予定の「委員会」に関する提案

(6) 研究会の心得

研究会では、櫻井アドバイザーから提案いただいた以下の4つの心得を踏まえ、研究活動を行った。

- ・その1 一人ひとりが研究員（自分の経験を客観的に）
- ・その2 違いを知る・まずは受け止める（キーワードは「多様性」）
- ・その3 楽しく、本音で（ここでお会いできたことをご縁に）
- ・その4 根気とこだわりをもって（大変なことの多い時代 拍手・うなずき）

（7）開催日程

回	開催日時	開催場所	議題
1	平成 29 年 10 月 24 日(火) 19 時～21 時	西条市役所本館 5 階 502 会議室	研究会の役割を描く／研究会 メンバーの紹介
2	平成 29 年 11 月 13 日(月) 19 時～21 時	西条市役所本館 5 階 502 会議室	自治会や市民活動団体の特徴 的な取り組み・工夫
3	平成 29 年 12 月 18 日(月) 19 時～21 時	西条市役所本館 5 階 502 会議室	広域コミュニティを考える(1) 自治会や市民活動団体の課題 と解決策
4	平成 30 年 1 月 15 日(月) 19 時～21 時	西条市役所本館 5 階 502 会議室	地域コミュニティを考える(2) 行政（公民館等の拠点施設を含 む）の関わりについて
5	平成 30 年 2 月 9 日(金) 19 時～21 時	西条市産業情報 支援センター 4 階 研修室	来年度以降の本格検討に向け た準備／総括

2 各地域や団体の取り組みの現状と課題

地域内の自治会や婦人会、ボランティア団体、市民活動団体などが実施している取り組みの目的、始めるに至ったきっかけや特徴、工夫について整理・分析を行い、以下のことが明らかとなった。

（1）市内には多様な取り組みがある

市内には、様々な特徴を持ち、工夫を凝らした取り組みが数多く存在する一方で、今回の研究会を通じて他地域の取り組みを初めて知ったという意見が多く、こうした他地域の取り組みを自分たちの地域の取り組みに活用・応用することで、取り組みが広がったり、課題解決に繋げることができることがわかった。

（2）地域住民のニーズ（必要なこと・声）に基づく取り組みが少ない

市内には、多様な「地域住民の交流」を目的としたものや「毎年行われることが決まっている」といった取り組みなど、文化や交流事業は豊富に行われている一方で、地域住民

のニーズに基づいた「地域の暮らしを支える」、「地域の困りごとを解決する」ということを目的とした取り組みが少ない。

(3) 今後必要となる視点と明るい材料

市内には豊富なアイデアによって様々な取り組みが実践されているが、地域住民のニーズに基づく取り組みが少ない。しかしながら、「何のためにやっているのか」、「誰のためにやっているのか」ということを振り返り、取り組みの目的を再確認し、目的の捉え方を変える（組み立て直す）ことによって、地域課題の解決に繋がる素晴らしい取り組みが存在する。

<研究会の様子>





<事業活動カード>

事業名 サマ-フェスタ	主催団体 管理委託連絡協議会 地域名 飯岡
事業概要 ・自然体験学習, 水泳教室, 防災教室, ・大人も楽しめる勉強, 参加量が多い. ・今年も!	

事業名 「玉津まつり」 実行委員会	主催団体 玉津公民館 地域名 玉津
事業概要 ・地区の伝統行事を小学校と連合し、 ①ことわざ ②食生活の健康 ③地域活性化 ・企業連携と若年層の増加の期待あり。地域化 意識を高める→若者の定住率アップ ・地域活性化の取り組みとして、 今年も「アートのまち」を目指して	

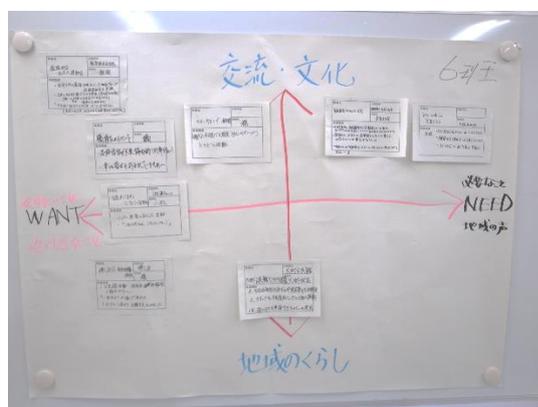
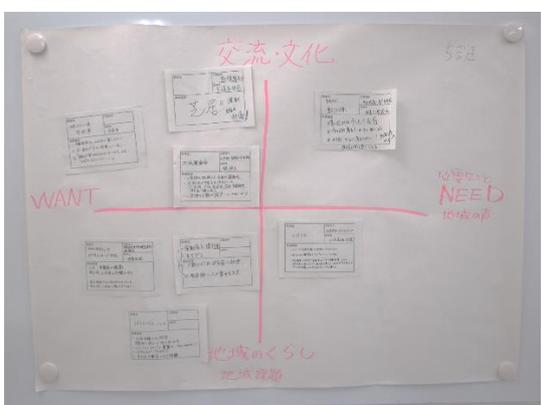
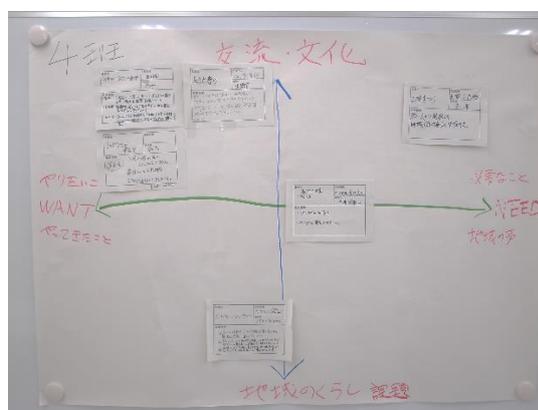
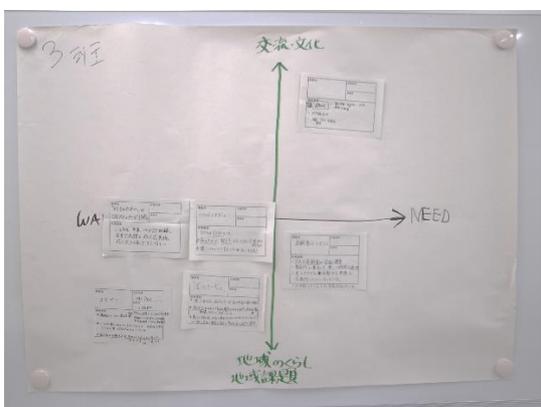
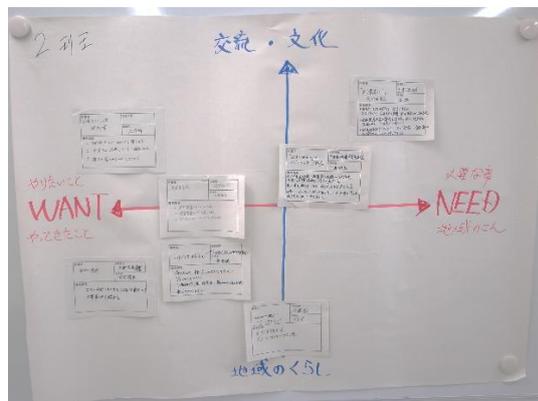
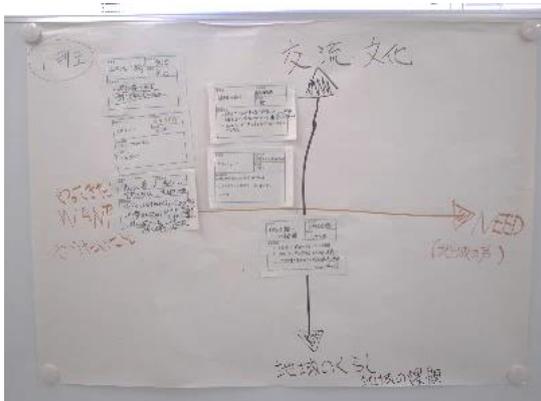
事業名 まちでこ	主催団体 (株) Deco 地域名 小松町
事業概要 ・今年より数量がアップし、 ■商店街に人が集まる様。①地域活性化の推進 ②地域活性化の推進 ■くらしが楽しくなる工夫に注力。政府の補助金 パンを消費しているものにしていく ■高齢者が目標を達成し、努力を認めることにより、 モチベーションを高める。	

事業名 裏PTA活動 アト大会	主催団体 PTA代表者育成 地域名 丹原小学校区
事業概要 ・アトモデルを作ります ・物作りと普及させたい。	

事業名 ぼーさい(は)こ	主催団体 地域名
事業概要 1. 女性自らの防災。 災害時に困ることを知り、 いろいろと「アト」豊富で、Very Good!! 2. 五耳も作る。作り手!! 3. 東日本大震災からの経験。	

事業名 飯岡地区 区民大運動会	主催団体 飯岡連合自治会 地域名 飯岡
事業概要 ・毎年4月の最終日曜日に17時～19時 飯岡運動会を実施。 ・区民の参加を促している。今年も1000名 (朝一の開催予定は中止) ・今年も56回を記録。100回記念 (来年度まで100回記念大会を実施)	

<事業カードの整理>



3 地域のくらし・団体の課題と解決策について

地域の暮らしや地域で活動する団体の課題を洗い出し、現在、その課題解決に向けた取り組みがどのような状況になっているのかについて研究を行った。

その結果、地域での課題解決に向けた取り組みは行政からの働きかけによって始まったものが多く、地域住民の創意工夫による取り組みがあまり見られなかった。また、自治会においては、お祭り、伝統行事及び親睦による活動が大半を占めており、課題解決に向けた取り組みが少ないことがわかった。

さらに、こうした地域課題の解決方策として、広域コミュニティの可能性や他の地域や団体との連携によるメリット、デメリットについて研究を行った結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 地域の暮らし等をめぐる課題に対する取り組みの現状

地域の暮らし等をめぐる課題（気になること、不安なこと）は多岐にわたるが、特に一人暮らしの高齢者の増加、自治会役員等の高齢化、地域活動の担い手の不足、防災への備え、空き家の増加などに対する取り組みが不足している。

【地域の暮らしや地域で活動する団体の課題でその取り組みが不足しているもの】

- ・ 1人暮らし高齢者の増加
- ・ 自治会役員等の高齢化
- ・ 防災に対する意識
- ・ 世代間交流の減少
- ・ 空き家の増加
- ・ 地域活動の担い手不足
- ・ 子供たちの安全確保
- ・ 交通の不便さ など

(2) 広域コミュニティの可能性や他の地域や団体との連携によるメリット・デメリット

広域コミュニティや他団体との連携による解決を目指すことで、「人材や情報が豊富となる」、「役員等に掛かる負担が軽減される」、「閉塞感からの脱却が期待できる」などの意見があった。一方で、広域コミュニティや他団体との連携による地域課題の解決に向けた取り組みについては、「まとめ役となるリーダーや事務局を担う人材の負担が増す」、また「地域の拠点となることが想定される公民館の負担増が危惧される」という意見も多く、「広域で事業を行うことできめ細かい目配りやサービスを行うことが難しくなるのではないか」という意見もあった。

【メリット】

- ・ 人材や情報などの資源が豊富であり、ノウハウを共有できる。
- ・ 様々な取り組みや活動が、他の地域や団体に広がっていく。
- ・ 地域の活動の参加者が増え、交流により新たな繋がりがうまれる。
- ・ 役員等の負担が分散される。

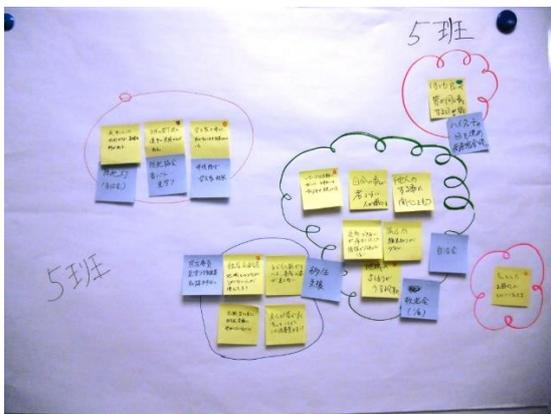
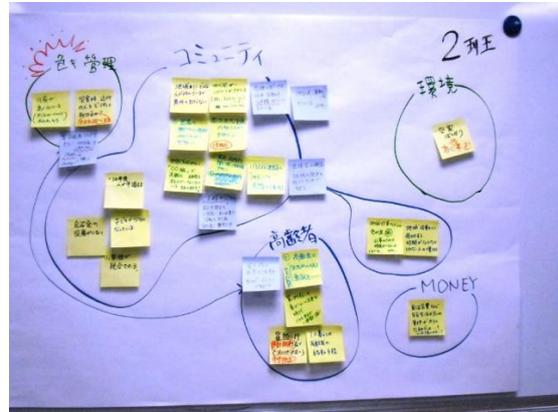
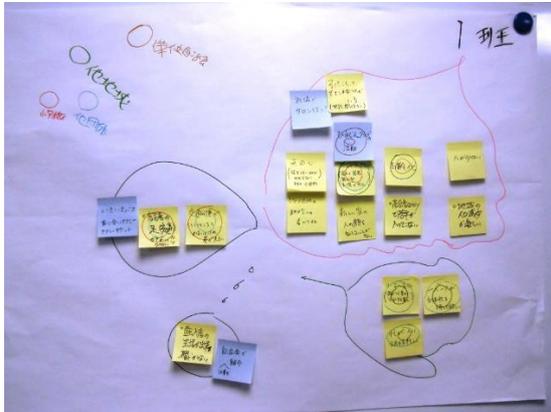
【デメリット】

- ・ 地域性の違いや個性を尊重しあえるのかが懸念される。
- ・ 合意形成が困難になることが心配される。
- ・ まとめ役となるリーダーの負担が増す。
- ・ 事務局を担う人材や、地域の拠点となる公民館の負担が増える（公民館の役割を見直す必要がある。）。
- ・ きめ細かい目配りやサービスが行き届かなくなる。

<研究会の様子>



<地域の課題（黄色カード）とその取り組み（青色カード）の整理>



4 行政との関わりについて

地域の暮らしや地域で活動する団体の課題及び広域コミュニティの可能性や他の地域や団体との連携によるメリット、デメリットを踏まえ、地域活動を通して感じている行政の課題、地域活動に必要なサポート及び広域コミュニティの設立、運営を想定した際に必要なサポート等についての研究を行い、以下のことが明らかとなった。

(1) 地域づくり推進に向けた行政の役割

広域コミュニティ形成に向けて、行政としての縦割りではなく、各部署が連携できる推進体制を整備する必要があり、特に行政職員の意識改革は重要である。

(2) 広域コミュニティへのサポート

地域間・団体間交流、他地域での取り組み情報収集・発信、リーダーを含めた人材育成が必要である。また、こうしたサポートにあたっては、地域や団体をつなぐ媒介者（中間支援）が必要である。

(3) 地域づくりのプロセスの大切さ

地域外の団体等と連携する前に、まずは地域内部での情報共有や団体間の交流・連携が必要である。また、すぐに何かの事業活動を行うのではなく、その前に実際に各地域で行われている取り組みを知ることが重要である。また、こうした地域での話し合いや活動を進めて行くにあたっての参考となる手引きのようなものがあれば、地域づくりが広がっていく。

(4) 活動拠点の役割・強化

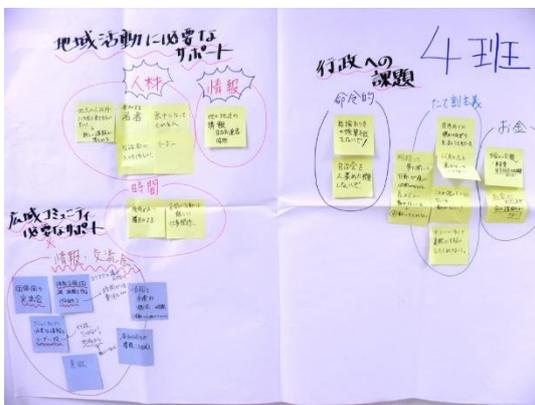
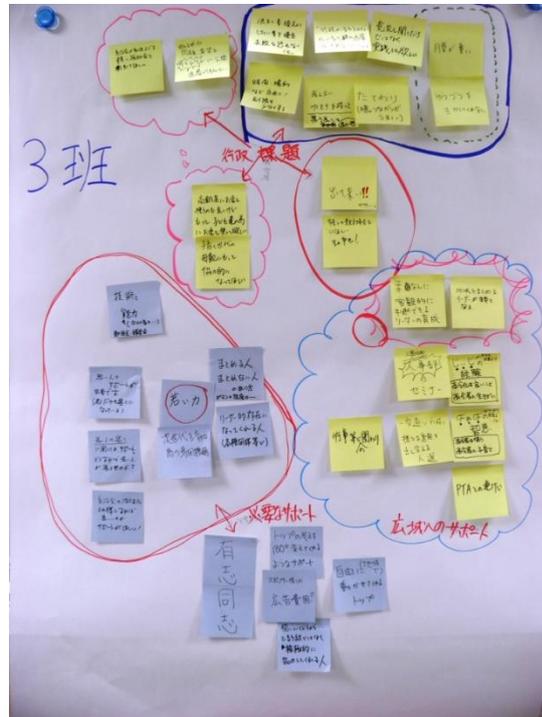
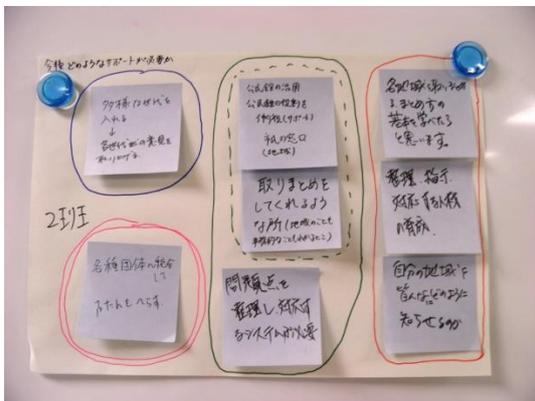
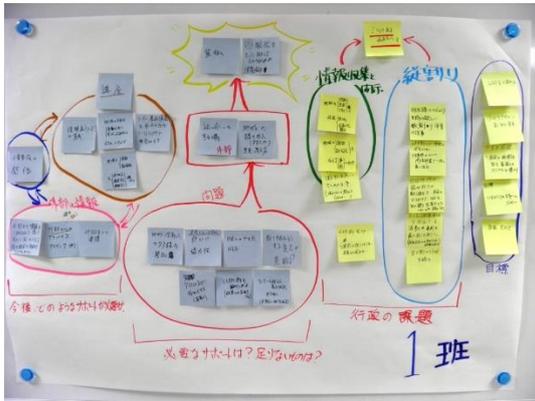
広域コミュニティ形成にあたっては、地域の活動拠点となる公民館や公民館職員の役割が非常に重要である。

<研究会の様子>





<各班のまとめ（行政の課題、今後必要となるサポートなど）>



5 西条市での本格検討にあたっての提案

来年度以降西条市がこれからの地域コミュニティのあり方を本格的に検討していくにあたって、その議論の内容や大切にしたいこと、また、検討委員会に参加する委員等について、以下のとおり提案をする。

(1) 地域コミュニティの本格検討での議論の内容や大切にしてほしいこと

- ・市内全地域を画一的に考えるのではなく、地域の個性や特性を大切にしたい内容になるよう検討すること。
- ・堅苦しい検討委員会ではなく、今回の地域コミュニティのあり方研究会のような会の雰囲気で行うこと。
- ・少数意見にも耳を傾けるなど、多数決ではなくじっくりと議論を重ねること。
- ・結論ありきではなく、地域住民の意見を反映した議論ができる検討委員会にすること。

(2) 検討委員会の委員について

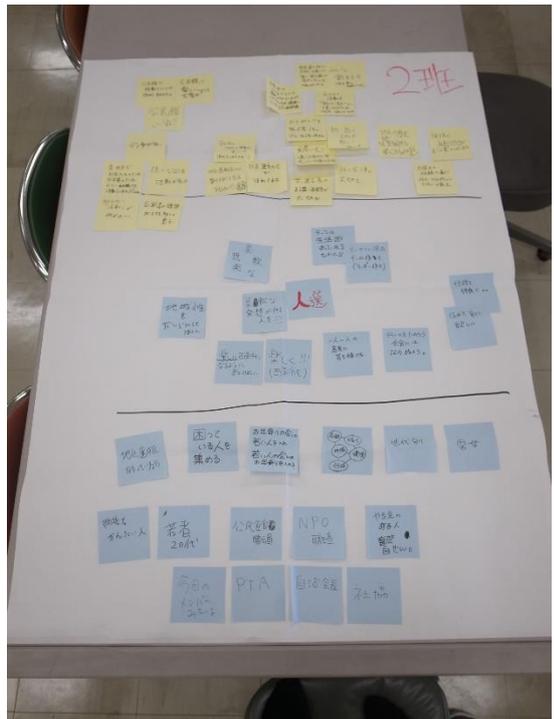
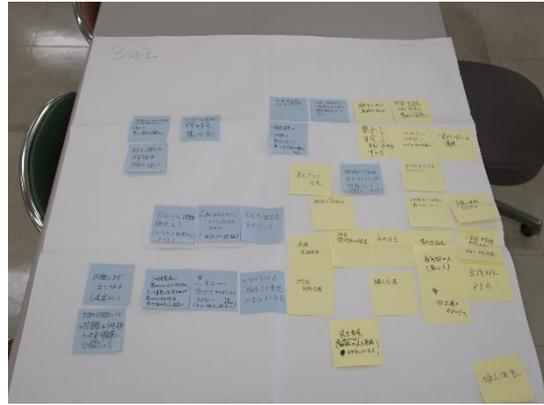
- ・自治会、婦人会、老人会、愛護班、PTA、民生委員、公民館職員など地域で活動する様々な団体・組織の方で構成すること。
- ・各世代から参加いただき、男女のバランスに配慮すること。
- ・充て職や肩書だけではなく、問題意識を持ったやる気のある方が参加すること。
- ・地域コミュニティのあり方研究会の研究者も参加すること。

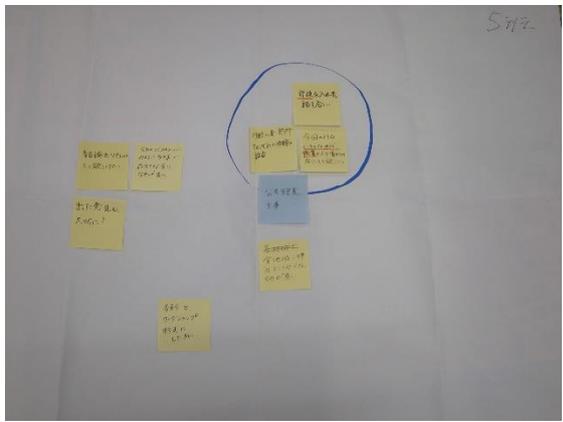
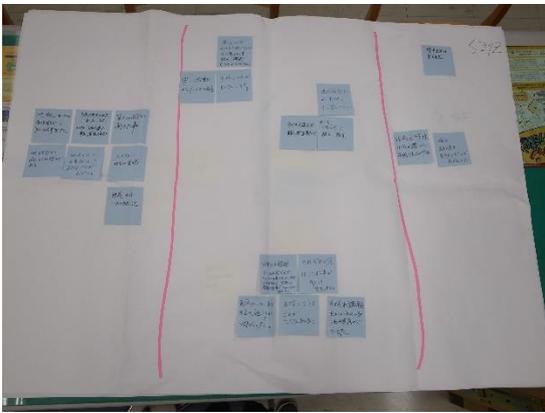
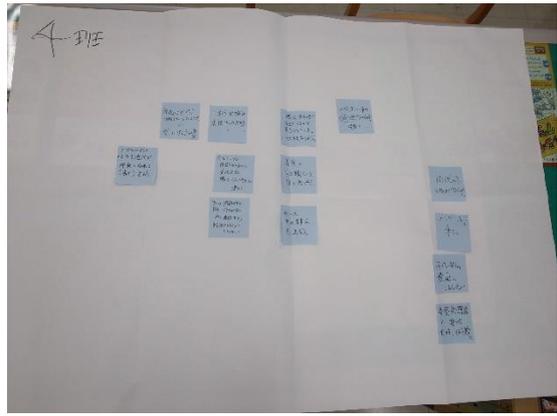
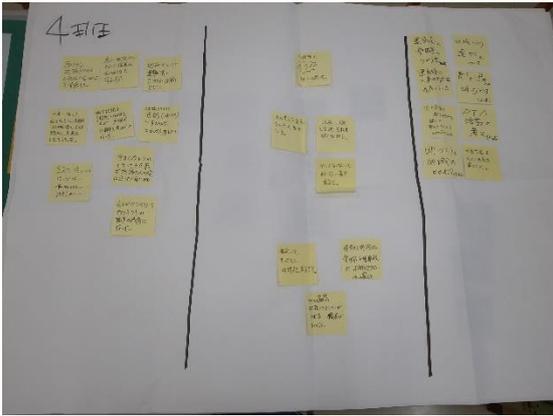
<研究会の様子>





<まとめ（今後の本格検討に向けた提案等）>







西条市

コ ミ 研 通 信

地域コミュニティのあり方研究会（通称：コミ研）

Vol.1

平成29年11月発行

事務局：西条市民協働推進課

8月26日に「地域づくり講演会～実践に学ぶ！これからの地域づくりへのヒント～」(主催：西条市)を開催したところ、櫻井常矢先生(西条市民協働に関する政策アドバイザー)から研究会のご提案いただき、この度、参加者の皆さんのご協力により、「地域コミュニティ研究会(通称：コミ研)」が発足しました。

コミ研では、自治会、婦人会、民生委員、若者、行政など、地域づくりに熱意をもった32名の皆さんで、それぞれの地域づくりについての違いや課題を共有し、これからの地域づくりのあるべき姿をこれから5回にわたって自由に議論していきます。

コミ研通信では、地域コミュニティのあり方研究会(コミ研)の様子をご紹介します。



第1回 コミ研

日時 平成29年10月24日(火) 19時～21時

会場 西条市役所5階 502会議室

参加者 28名(事務局、アドバイザー等を除く)

講演会チラシ

第1回目となる地域コミュニティのあり方研究会(コミ研)では、玉井市長の挨拶の後、西条市民協働に関する政策アドバイザーである櫻井常矢先生から、8月26日の地域づくり講演会の振り返りなども踏まえて、「なぜ、地域づくりなのか」をテーマに多様化・深刻化する地域の課題、地域の暮らしを支えるための広域コミュニティの必要性について熱く、迫力のある講話をいただきました。

引き続き、櫻井先生から、研究会の目的、心得、今後のスケジュールについての説明の後、研究会メンバーによる自己紹介、班ごとのによる地域の現状や課題、研究会への期待などメンバー同士のグループディスカッションで大いに盛り上がり、あっという間の2時間でした。



市長挨拶

コミ研では、櫻井先生のご指導のもと、参加者の皆さんでこれからの地域コミュニティのあるべき姿を自由に議論してください。市民主役の西条の実現に向けて一緒に頑張りましょう。

櫻井先生、よろしくお祈りします。大好きです♡

グループワークの様子



櫻井先生講話

多様化・深刻化する地域の課題を解決するには、行政だけでは対応できません。一方で、地域の課題を解決する(=地域の暮らしを支えていく)には、従来の組織・団体のままでは限界が現れてきます。これからの地域づくりには連携・協働が大切になってきます。

コミ研では、市内の地域コミュニティの現状と課題の共有や広域コミュニティの形成に向けた検討課題の整理を行い、来年度以降に行政において本格化する新たな地域コミュニティのあり方検討の準備段階から提案をしていきたいと思ひます。

研究会の心得は、その1(一人ひとりが研究員)、その2(違いを知る・まずは受け止める)、その3(楽しく本音で)、その4(根気とこだわりをもって)の4つです。



櫻井先生の講話に熱心に耳を傾け、メモをとるコミ研メンバー



次回のコミ研は・・・

自治会や市民活動団体の特徴的な取り組み・工夫

日時 平成29年11月13日(月) 19時～21時

会場 西条市役所5階 502会議室



第2回 コミ研

日時 平成29年11月13日（月）19時～21時

会場 西条市役所5階 502会議室

参加者 21名（事務局、アドバイザー等を除く）

今回の研究会は4名ずつのグループに分かれ、各地域の自治会や婦人会、ボランティア団体、市民活動団体などが実施している取り組みの目的、はじめるに至ったきっかけや特徴、工夫について分類し、整理しました。

その結果、市内には、様々な特徴を持ち、工夫を凝らした取り組みが数多く存在する一方で、「地域住民の交流」を目的としたものや「毎年行われることが決まっている」といった取り組みが多く、地域住民のニーズに基づいた「地域の暮らしを支える」、「地域の困りごとを解決する」ということを目的とした取り組みが少ないことが明らかになりました。

今回の研究会では、「何のためにやっているのか」、「誰のためにやっているのか」ということを振り返り、取り組みの目的を再確認することの大切さ、また、目的の捉え方を変えることによって、地域課題の解決に繋がる取り組みが存在すること、そして、市内には、豊富なアイデアによって様々な取り組みが実践されていることを認識しました。

①全回のふり振り返り



<コミ研の目的>

- ・西条市の地域コミュニティの現状と課題の共有
- ・広域コミュニティ形成に向けた課題の共有
- ・来年度以降設置予定の「委員会」に関する提案

<コミ研の心得>

- ・その1 一人ひとりが研究員
- ・その2 違いを知る・まずは受け止める
- ・その3 楽しく、本音で
- ・その4 根気とこだわりをもって

<コミ研通信の紹介>

②課題（宿題）の発表

メンバーより、地域・団体の特徴的な取り組みや工夫について、発表がありました。



③グループワーク

各地域や団体の特徴的な取り組みや工夫を紹介し合うなど、メンバー間での共有を図り、事業活動ごとにその取り組みや工夫のポイントを書き出し、目的やはじめるに至ったきっかけや特徴、工夫について分類・整理しました。



次回のコミ研は・・・
広域コミュニティを考える（1）
自治会や市民活動団体の課題と解決策

日時 平成29年12月18日（月）19時～21時

会場 西条市役所5階 502会議室



第3回 コミ研

日時 平成29年12月18日（月）19時～21時
会場 西条市役所5階 502会議室
参加者 20名（事務局、アドバイザー等を除く）

今回の研究会では、地域の暮らしや地域で活動する団体の課題について整理し、その解決策として広域コミュニティの可能性や他の地域や団体と連携することによるメリット、デメリットについて研究しました。

一人暮らしの高齢者の増加、自治会役員等の高齢化、地域活動の担い手の不足、防災への備え、空き家の増加など、多様な課題の解決に向けた取り組みが不足する一方で、広域コミュニティや他団体との連携による解決を目指すことで「人材や情報が豊富となる」、「役員等に掛かる負担が軽減される」、「閉塞感からの脱却が期待できる」などの意見がありました。

しかし、広域コミュニティや他団体との連携による地域課題の解決に向けた取り組みには、「まとめ役となるリーダーや事務局を担う人材の負担が増す」、また、「地域の拠点となることが想定される公民館の負担増が危惧される」という意見も多く、「広域で事業を行うことできめ細かい目配りやサービスを行うことが難しくなるのではないか」という心配の声もありました。

今回の研究会では、地域の課題を解決するための広域コミュニティや他団体との連携による解決という新たな可能性を研究するとともに、その解決策に潜むデメリットにも着目した研究会となりました。

<地域の暮らしや地域で活動する団体の課題>

- ・ 1人暮らしの高齢者の増加
- ・ 空き家の増加
- ・ 自治会役員等の高齢化
- ・ 地域活動の担い手不足
- ・ 防災に対する意識
- ・ 子供たちの安全確保
- ・ 世代間交流の減少
- ・ 交通の不便さ

・・・など

<広域コミュニティや他団体との連携によるメリット>

- ・ 人材や情報などの資源が豊富であり、ノウハウを共有できる
- ・ 様々な取り組みや活動が、他の地域や団体に広がっていく
- ・ 役員等の負担が分散される
- ・ 閉塞感からの脱却

<広域コミュニティや他団体との連携によるデメリット>

- ・ 地域性の違いを乗り越えられるのか？
- ・ まとめ役となるリーダーの負担が増してしまうのでは？
- ・ 事務局を担う人材や、地域の拠点となる公民館の負担が増してしまうのでは？
- ・ きめ細かい目配りやサービスが行き届かないのでは？

次回のコミ研は・・・

行政(公民館等の拠点施設を含む)との関わり

日時 平成30年1月15日（月）19時～21時
会場 西条市役所 庁舎本館5階 502会議室





西条市

コ ミ 研 通 信

地域コミュニティのあり方研究会（通称：コミ研）

Vol.4

平成30年1月発行

事務局：西条市市民協働推進課

第4回 コミ研

日時 平成30年1月15日（月）19時～21時

会場 西条市役所5階 502会議室

参加者 25名（事務局、アドバイザー等を除く）

今回の研究会では、前回研究を行った「地域の暮らしや地域で活動する団体の課題」、「広域コミュニティの可能性や他の地域や団体との連携によるメリット、デメリット」について櫻井先生が分析した内容をメンバー間で共有した後、「地域活動を通して感じている行政の課題」、「地域活動に必要なサポート」、「広域コミュニティの設立、運営を想定した際に必要なサポート」について研究を行いました。

その結果、行政に対しては、「縦割りによる連携不足」、「財政支援の不足」など多くの課題が見つかるとともに、自らの活動に対しては、「情報、交流、人材の不足に対するサポート」、「行政との間にたって仲介役や活動に対する評価をしてくれる存在」、「財政的なサポート」、「若者の力」などが求められていることがわかりました。

また、広域コミュニティに対しては、「リーダーの育成」、「情報や意見を交換できる場」、「各種団体の負担の軽減」などが必要であるとの意見が出たほか、公民館の重要性を指摘する意見も多くありました。

前回の研究から見えてきたポイント！

- 地域の暮らしをめぐる課題や解決方法を話し合うには、多くの人の考えや視点が必要となる。
- 地域に暮らす市民が自ら創意工夫して始めた取り組みが少ないのでは？行政からの働きかけにより始めた取り組みが多くあるのではないだろうか？
- 自治会、各種団体、広域コミュニティなどそれぞれの役割(何ができて、何ができない)を整理していく必要がある。



地域活動を通して感じている行政の課題や行政に求めたい取り組み、改善点は何か？

- 縦割り行政による部署間の連絡・連携不足
- 自治会や団体の取り組みに対する財政支援の不足
- 公民館に求められる人材の配置
- 様々な取り組みについての情報を交換する場がない
・・・など

地域活動に必要なサポートや自分たちの活動に足りないものは何か？

- リーダー的存在になる人が少ない
- 若者の参加が少ない(若者によるサポート不足)
- 他の自治会や団体との交流が少ない
- 取り組もうとする意欲や意志が足りない
・・・など

広域コミュニティの設立、運営を想定した際に必要なサポートは何か？

- リーダーを養成する講座やセミナーの開催
- 他の自治会や団体との交流や意見交換の場
- 各種団体の統合や役割分担による負担の軽減
- 公民館における適正な人材配置と公民館としてのサポート
・・・など



次回(最終会)のコミ研は・・・

来年度以降の本格検討に向けた準備と総括

日時 平成30年2月9日（金）19時～21時

会場 西条市産業情報支援センター 4階 研修室

終了後、センター1階交流サロンにて懇親会を開催





西条市

コ ミ 研 通 信

地域コミュニティのあり方研究会（通称：コミ研）

Vol.5

平成30年2月発行
事務局：西条市市民協働推進課

第5回(最終回) コミ研

日時 平成30年2月9日(金) 19時~21時
会場 産業情報支援センター 4階 研修会議室
参加者 24名(事務局、アドバイザー等を除く)

今回の研究会では、これまでの研究会を通してメンバー自身が学んだこと、印象に残ったこと、自分の地域や仲間に伝えたいことなどをメンバー間で共有した後、来年度以降に地域コミュニティのあり方を本格検討するにあたり、その内容や方法、参加メンバーなどについて話し合いました。

各メンバーからは、「地域の特性を大事にしてもらいたい」、「参加者が楽しく議論できる雰囲気大切にしてもらいたい」など、多くの意見が出され、最終回となった今回も各テーブルで熱心な議論が展開されました。

これまでの5回にわたる地域コミュニティのあり方研究会では、様々なテーマについて研究を行うことで、本市の現状や課題を把握するとともに、地域づくりに関わる多くの方にご参加いただき、新たなネットワークが構築されるなど、大変有意義な研究会となりました。

前回の研究から見てきたポイント！

- 地域づくり推進に向けた行政の役割として、推進体制の整備、職員の意識改革
- 広域コミュニティへのサポートとしての中間支援組織の重要性
- 地域づくりにおけるプロセスの大切さ(まず地域内の事をよく知る事が大事)
- 活動拠点としての公民館への重要性、公民館職員に求められる資質



コミ研の第1回からふり返って、メンバー自身が知ったことや学んだこと！

- 話し合うことの大切さ
- 地域内でも知らない活動が多くあった
- 大事なことは多くの意見を聞くこと
- 失敗は起こるけどやめないことが大事
- それぞれの団体の役割分担が大切である
- 仲間が多くできて良かった
- 公民館の重要性をすごく感じた
- 地域には課題も多いが、皆で解決に向けて考える力がある

・・・など



来年度以降に地域コミュニティのあり方を本格検討するにあたり、議論の内容や大切にしたいことは？

- 地域性を大切にしたい内容
- 強いリーダーの育成が必要
- 今回のコミ研での絆を大切にしたい
- 地域の問題を出し切る
- コミ研のような楽しく参加できる雰囲気づくり
- 前向きな課題解決を望む
- 少数意見にも耳を傾けてほしい
- 出された意見を大切に
- 楽しい西条市になるように考えてほしい
- 行政を入れた話し合い

・・・など



検討するにあたり、どのような人に参加してほしいか？

- 地域のことをよく知っている人
- 西条を変えたい人
- 地域で活躍している人
- 男女や年齢にこだわらずに
- 男性と女性は同数であってほしい
- 消防団員、愛護班、PTA
- 子育て世代や青年団員などの若い人
- 中学校、高校の生徒会長
- 地域の活動拠点である公民館職員
- 今回のメンバーみたいな人

・・・など

